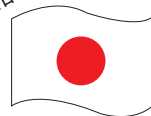


山梨県神社庁報

かみかね

祝祭日には国旗を掲げましょう



11月3日	文化の日
11月23日	勤労感謝の日
12月23日	天皇誕生日
1月1日	元日
1月12日	成人の日

第167号（平成26年10月20日）



三島神社 (北杜市須玉町大蔵鎮座)

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて回るところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩
とに感謝し、明き清
きまことを以て祭祀
にいそしむこと

一、世のため人のために
奉仕し、神のみこと
もちとして世をつく
り固め成すこと

一、大御心をいただきて
むつび和らぎ、国の
隆昌と世界の共存共
栄とを祈ること



式 辞

庁長 根 津 泰 昇

本日茲に神職、総代を始め県下の氏子、崇敬者各位にご参列いただき、平成二十六年山梨県神社関係者大会を開催いたしました処、神社本庁統理殿、神宮大宮司殿を始め多数の御来賓のご臨席を頂き篤く御礼申し上げます。

ご参集頂きました関係者各位には、斯界の為に常日頃ご尽力頂いております事に敬意を表します。

畏くも天皇陛下におかせられましては、天機愈々麗しく日々の公務にあたり精励遊ばされておりますこと、慶賀に堪えない次第です。去る三月二十六日には剣璽御動座のもと内宮、外宮の御正宮に参拝遊ばされました。

また学懂疎開船対馬丸犠牲者の慰霊のため沖繩へ行幸啓なられました。悲劇より七十年目を迎えるにあたり炎天下の中、全くご年齢を感じさせない力強い

足取りのお姿には胸を打たれました。両陛下にあらましましては常に日本又世界の平和に思いを寄せられるお心が偲ばれます。

神宮の御事につきましては、内宮、外宮の遷御に引き続き別宮の遷御が斎行されております。明年三月十五日風宮の遷御で第六十二回式年遷宮が納められます。参宮の折には是非別宮にもご参拝できる御計画を立て戴きたく存じます。

神宮大麻につきましては、昨年は関係者各位のご尽力を賜り、千九百三十五体増で全国二番の増体県となり神宮より「特に努力が認められる神社庁」として表彰の榮に浴する事ができました。

これも偏に関係者各位の賜物と感謝申し上げます。

本年は頒布率が低迷な都市部に重点を置いた施策を推進し、県内一丸となり、神宮大麻の頒

布の向上に尽力して参りたいと存じますのでご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

本年の全国総代会岐阜大会の折に、参加総代様より貴重なご意見を賜りました。目線が違えば見方、考え方が変わる事を実感いたしました。今後も些細なことでも結構でございますので皆様に「意見を賜りたく存じます」。

昨今の世の中は大きく変化しています。「救いの心」「尊ぶ心」「信仰の心」が薄らいで自己中心的な社会現象が見られます。

神社庁といたしましても時代に即した庁運営の変革の必要性を感じております。次世代への確立を再構築する使命もありますので、本年より（仮称）山梨県神社庁奉賛会の設立を見据え、検討委員会を設置し検討に入ることが理事会にて承認されましたので、忌憚ないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが本日表彰の榮に浴された方々は常日頃神明奉仕に携われていらしやることとが認められたことでございます。心よりお祝い申し上げます。と共に今後のご活躍、ご健勝をご祈念申し上げます。

平成二十六年度 神社関係者大会次第

第二部 神宮大麻頒布始祭

（午後一時）当番 峡中支部
雅楽奏楽 山梨県神道雅楽会
豊栄の舞奏

時刻 山梨県女子神職会

次に 斎主祭員並参列者着席

次に 修祓

次に 斎主が一拝す

次に 神饌を供す

次に 斎主祝詞を奏す

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽

次に 此の間奏楽



式 辞

山梨県神社総代会

会長 中 込 豊 秋

中秋の候、こゝに平成二十六年山梨県神社関係者大会にあたり、神職、総代、氏子、崇敬者各位の皆様のご参加をいただき盛會に開催出来ますこと、この上ない喜びとすることでご座居ます。

皆様には日頃、それぞれの神社へのご奉仕誠に有難うご座居ます。

なおご来賓各位にはご多用のなか、神社本庁統理殿、神宮大宮司殿を始め、国会議員、県議会議員、神社関係団体代表、各位多数のご臨席を賜り篤く感謝申し上げます。先生方には山梨県神社界の為、多大なるご尽力、ご奉仕を賜り、重ねてお礼申し上げます。

また、皇室におかれましては十月五日、高円宮憲仁親王第二息女、典子女王殿下には、島根、出雲大社、権宮司千家國麿氏との御結婚式が執りおこなはれました。誠に畏き極みであります。

皇室の慶事、心より奉祝、申し上げる次第であります。

さて本年九月の第二次安部改造内閣に、我々が選挙で支援致しました、山谷えり子先生が、(国家公安、拉致問題、海洋領土、等)担当大臣にご就任されました。有村治子先生は、(行政改革、規制改革、少子化対策)等、担当大臣にご就任されました。お二人の大臣の誕生は神社界にとりましては、この機会に学校教育のなかで、日本の歴史、日本の伝統文化、古来の神話等、古きを知りて、新しい国を愛する心、平和を愛する日本人の心、一言で申するならば日本再生平和教育の実現を期待して参りたい。

先程、神宮大麻暦頒布始祭が催されました。ご案内のように大麻とは伊勢神宮の神札のことです。昨年は県下で千九百三十五体の増体の成果をあげました。今年も皆様方の更なる

増体をお願い申し上げます。特に新築された家、若い方々への願いをどうか積極的に働きかけて下さい。

昨年より展開しております、国旗掲揚推進運動、県八支部毎に推進委員会が設立されました。

支部を中心に進めますが、先は神職、総代の家から、又公民館、学校、保育園、元気な会社、工場、商店街等、皆さんは勇気をもって、日本の印日の丸を掲げる運動にご参加して下さい。

去る九月九日第五十回全国神社総代会の大会が岐阜県、長良川国際会議場に於いて開催され、席上本県より二名方が表彰されました。本日も後程、多数の方が表彰されます。受賞者皆さんは平日頃、永年に亘り神明奉仕、地域振興に携われた皆様です。お芽度ございます。今後共ご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

最後に十一月二十日、二十一日、新穀感謝祭、伊勢神宮にお誘い合せ、多く方のご参加をお願い申し上げます。

第二部 靖國神社DVD鑑賞

(午後一時五十分)

清興 童謡・唱歌

休憩 (午後二時二十分)

第三部 神社関係者大会

(午後二時三十分)

次 第

- 一、開式の辞
 - 一、神宮遙拝
 - 一、国歌斉唱
 - 一、敬神生活の綱領唱和
 - 一、物故者の霊に黙祷
 - 一、庁長式辞
 - 一、総代会長挨拶
 - 一、庁務報告
 - 一、功績表彰
 - ・神社庁規程表彰
 - ・神社総代会規程表彰
 - ・神社本庁規程表彰者伝達
 - ・全国神社総代会表彰者伝達
 - 一、神宮大麻優良表彰者伝達
 - 一、長寿の祝い記念品贈呈
 - 一、来賓祝辞
 - 1 神社本庁統理
 - 2 神宮大宮司
 - 3 神道政治連盟会長
 - 一、他
 - 一、被表彰者謝辞
 - 一、萬歳奉唱
 - 一、閉式の辞
- 午後三時五十分 終了予定

庁 務 報 告

事 業

- 1、神宮式年遷宮奉賛
 - 2、神宮大麻奉斎推進
 - 3、神殿三大祭斎行
 - 4、神宮新穀感謝祭奉賛
 - 5、靖國神社公式参拝実現運動実施
 - 6、北方領土返還運動継続
 - 7、各種研修
 - イ、現任神職研修会
 - ロ、総代研修会
 - ハ、雅楽研修会
 - ニ、関東地区中堅神職研修会
 - ホ、女子神職研修会
 - ヘ、浦安の舞研修会
 - 8、一都七県神社庁連合会議
 - 9、国旗掲揚運動推進
 - 10、金品寄付者顕彰
 - 11、神政連活動に協力
 - 12、神社奉護運動推進
 - 13、日本会議活動に協力
 - 14、郷土暦編集配布
 - 15、庁報「ひがね」年四回発行
- 神社本庁統理の承認を申請した神社
- 甲府 酒折宮 枯損木伐採
- 東山梨 唐土神社 財産処分
- 峡南 山王神社 財産処分

諏訪神社 主要建物模様替

八王子神社 神社合併

御幸神社 財産処分

峡中

諏訪神社 枯損木伐採

山ノ神神社 財産処分

八幡神社 枯損木伐採

桃園神社 財産処分

峡北

熱那神社 枯損木伐採

姫宮神社 主要建物新築

白山神社 主要建物改築

若宮八幡宮 主要建物改築

南都留

小野熊野神社 主要建物改築

連神社 枯損木伐採

連神社 財産処分

北都留

春日神社 主要建物改築

金山神社 枯損木伐採

金山神社 主要建物改築

稲村神社 財産処分

軍刀利神社 主要建物新築

神社本庁規程表彰

小室浅間神社宮司 宮下 莊一

若宮神社宮司 志村 重治

玉諸神社役員 中込 豊秋

神社庁規程表彰

御崎神社宮司 上條 晃

住吉神社権欄宜 横森 寿夫

八幡神社宮司 山本 純司

北口本富士浅間神社權宜 田邊 將之

金櫻神社責任総代 駒井 賢一

福地八幡神社責任役員 奈良 俊一

神宮大麻頒布優良者表彰

優秀支部

東八代支部

南都留支部

特別表彰頒布優良奉仕者

北口本富士浅間神社宮司 上文司 厚

頒布優良奉仕者(神職)

武田神社権欄宜 乙黒 洋

八幡神社宮司 望月 和好

金山神社宮司 金子 寿元

頒布優良奉仕者(総代)

穴切大神社総代 木内 伸男

穴切大神社総代 山本 力

伊勢社総代会監事 金澤 昭博

伊勢社責任総代 名取 吉平

八幡神社総代 金丸喜代重

全国神社総代会規程表彰

諏訪神社役員 野田 武

富士浅間神社役員 渡邊 勝雄

山梨県神社総代会規程表彰

鈴宮諏訪神社総代会員 平嶋 正利

神明神社総代会員 島津 愛美

三社諏訪神社総代 森田 和彦

三社諏訪神社幹事総代 長田 永年

三社諏訪神社総代 穴戸 忠三

三社諏訪神社総代 渡辺 志郎

三社諏訪神社総代 小林 尚武

天満宮責任役員 山本 高德

宇波刀神社崇敬会代表 石原 衛

稲積神社崇敬青年会 堀内 久

稲積神社崇敬青年会 西野 直樹

稲積神社崇敬青年会・神輿睦会 羽中田春夫

八幡神社奉賛会会長 小野 俊之

八幡神社(総代) 囀託 石川 雅美

一實神社総代 原田 洋二

一實神社総代 三枝 政

浅間神社責任総代 齊藤 和夫

酒折宮監事総代 長坂 一

酒折宮監事総代 太田 勇

酒折宮総代 中島フミ子

大木神社氏子総代 駒井 紘

金櫻神社責任総代 津野 正康

金櫻神社氏子 津野田利夫

金櫻神社 駒井 隆治

甲斐奈神社 辻 康雄

白幡神社崇敬者 山下 英幸

果鷹神社総代 田中 佐取

果鷹神社総代 宮澤 和徳

熊野神社責任役員 水上 友光

表門神社責任役員 丹澤 嘉雄

表門神社神楽保存会名誉会長 小川 京一

表門神社神楽保存会会長 山村 正

熊野大神社氏子 望月津祢子

十五所大神社総代 田中 昭彦

八幡神社責任役員 遠藤 昇

天神中条天満宮責任役員 名執 初男

諏訪神社責任役員総代会長 小林 教夫

諏訪神社前総代長 花田 登

【新任神職】

大神宮権欄宜 加賀美るみ

諏訪神社権欄宜 仙洞田茂美

八幡神社権欄宜 深澤 宜彦

浅間神社権欄宜 古屋 真東

武田神社権欄宜 中村 謙

山梨縣護国神社権欄宜 渡辺 僚

酒折宮権欄宜 飯田 浩美

浅間神社権欄宜 須田 順子

福地八幡神社権欄宜 堤 正宏

北口本富士浅間神社権欄宜 佐々木宗平

【昇任神職】

浅間神社宮司 古屋 真弘

浅間神社権欄宜 植松 真芳

八幡神社宮司 内藤 正隆

武田八幡宮権欄宜 内藤 佑介

山梨岡神社宮司 中村 司

武田神社宮司 佐々木高仁

天神中条天満宮宮司代務者 堀内 致成

【本務神職】

八幡神社宮司 山本 純司

八王子神社宮司 小林 一夫

【帰郷神職】

八幡神社宮司 内藤 正夫

金桜神社宮司 窪坂 豊臣

山梨岡神社宮司 土橋 和行

稲積神社権欄宜 神戸 勉

武田神社名号宮司 土橋 勝夫

【退職神職】

神明神社権欄宜 齊藤 渉

稲積神社権欄宜 有泉 享

片務日誌抄

祭儀関係

平成二五年	神殿月次祭肅行	一・二九	神殿例祭肅行	九・七	牛倉神社例祭献幣使参同	二一・二三	役員会	一・一〇	庁報委員会	庭おこや)
一〇・二	皇大神宮遷御の儀奉拜	二・一一	神殿月次祭肅行	九・一七	神宮大麻曆頒布始祭参列	二一・二三	日本会議代表者会(憲政記念館、式年遷宮奉賛会(パレスホテル)	一・一一	東八代支部新年五礼会(浅間神社)	
一〇・五	豊受大神宮遷御の儀奉拜	二・一三	神殿祈年祭肅行	九・二三	山縣神社例祭献幣使参同	二一・一七	「県民の日」北方領土返還要求運動	一・一三	望月清賢総決起集會山梨市民会館	
一〇・一八	靖国神社秋季例大祭参列	四・一	神殿月次祭肅行	九・二七	嶺南支部神宮大麻曆頒布始祭肅行	二一・一九	キヤンペーン(小瀬スポーツ公園)	一・一六	人事委員会、役員会、役員初会	
一〇・二三	嶺中支部神宮大麻曆頒布始祭肅行	四・三	神殿月次祭肅行	平成二五年	神社本庁・神社庁・神政連・総代会	二一・二〇	神宮新穀感謝祭参拝旅行(一八四四名)	一・二二	神宮初詣参拝旅行	
一〇・二八	神宮大麻曆頒布始祭肅行	四・五	山梨縣護國神社例祭参列	一〇・四	庁報委員会	二一・二〇	神宮新穀感謝祭参拝旅行(一八四四名)	一・二五	嶺北支部新年合同會議清水屋旅館	
一一・一	神殿月次祭肅行	四・二一	武田神社例祭献幣使参同	一〇・八	神政連県本部常任委員会	二一・二二	神宮新穀感謝祭参拝旅行(一八四四名)	一・二九	會議清水屋旅館	
一一・五	嶺北支部神宮大麻曆頒布始祭肅行	四・二二	金櫻神社例祭参列	一〇・一六	役員会	二一・二三	教化委員広報部会	二・二	山梨市長選挙候補票日(望月清賢候補当選)	
一一・五	嶺北支部神宮大麻曆頒布始祭肅行	四・二三	靖国神社春季例大祭参列	一〇・一七	庁報委員会	二一・二五	神宮式年遷宮記念全國神社関係者大会(三重県宮アリナ)	二・五	甲府支部総代神社関係者合同初会(ヘルクラシック甲府)	
一一・六	甲府支部神宮大麻曆頒布始祭肅行	四・二五	河口浅間神社例祭献幣使参同	一〇・二三	定例評議員会(神社本庁)	二一・二六	全国強化會議(神本)	二・七	北方領土返還要求街頭キャンペーン(甲府駅頭)	
一一・六	麻領布始祭肅行	五・一	稲積神社例祭参列	一〇・二四	一都七県教化担当者研修会(箱根湯本「吉池旅館」)	二一・二七	庁報委員会	二・七	北方領土返還要求運動全國大会(日光会館)	
一一・八	東山梨支部神宮大麻曆頒布始祭肅行	五・三	北口本宮富士浅間神社例祭献幣使参向	一〇・二八	山梨県神社関係者大会(山梨県民文化ホール)	二一・二八	全国強化會議(神本)	二・七	比谷公堂會	
一一・九	東八代支部神宮大麻曆頒布始祭肅行	六・一	神殿月次祭肅行	一一・三	堀内富久出陣式(光陽精密跡地)	二一・二九	教化委員会	二・七	北口支部神職総代合同年未會議(魚光会館)	
一一・一二	麻領布始祭肅行	六・二	北口本宮富士浅間神社例祭献幣使参向	一一・四	やよい会懇親会(KKR甲府ニュー美登)	二一・三〇	神本	二・七	神本	
一一・一九	新嘗祭肅行	六・三	神殿月次祭肅行	一一・五	南都留支部関係者大会(ハイランドリゾート)	二一・三一	人事委員会、役員会、役員初会	二・一三	細則検討委員会、役員會、教化講演會	
一一・二一	神宮新穀感謝祭参拝旅行	七・一	神殿月次祭肅行	一一・六	宗教法人実務研修会(千葉教育会館)	二一・一四	日本会議関東支部後期理事会	二・一四	女子神職会初会、文化庁不活動法人対策會議	
平成二六年	神殿歳旦祭肅行	八・一	山梨縣護國神社祭参列	一一・七	宗教法実務研修会(千葉教育会館)	二一・一六	日本会議関東支部後期理事会	二・一四	女子神職会初会、文化庁不活動法人対策會議	
一一・二一	神宮初まいり	八・二	山梨縣護國神社祭参列	一一・七	宗教法実務研修会(千葉教育会館)	二一・一六	日本会議関東支部後期理事会	二・一四	女子神職会初会、文化庁不活動法人対策會議	

山梨県神社庁経常費歳入歳出決算 自 平成25年 7 月 1 日 至 平成26年 6 月30日				山梨県神社庁経常費歳入歳出予算 自 平成26年 7 月 1 日 至 平成27年 6 月30日			
歳 入 の 部							
款項 科 目	25年度決算額	本年度予算額					
神社本庁幣帛料	383,400	380,000		光 熱 水 費	950,420	1,100,000	
負 担 金	22,631,300	22,592,300		通 信 運 搬 費	538,601	800,000	
本 庁 協 賛 金	600,000	600,000		賭 博 費	12,336	50,000	
神 社 負 担 金	11,366,300	11,366,300		旅 行 費	1,627,920	1,500,000	
神 職 負 担 金	8,335,000	8,296,000		交 際 費	656,490	1,100,000	
特別神社寄贈金	1,930,000	1,930,000		慶 弔 費	150,000	250,000	
神宮奉賛活動推進費	400,000	400,000		雑 費	47,812	100,000	
交 付 金	48,868,500	49,300,000		車 両 維 持 管 理 費	770,728	1,100,000	
神宮神徳宣揚費	47,600,000	48,300,000		事 業 費	7,886,447	10,490,000	
神社本庁交付金	1,268,500	1,000,000		教 化 関 係 費	866,337	1,000,000	
財 産 収 入	9,539	17,000		教 化 委 員 会 費	1,936,280	2,600,000	
神 殿 奉 納 金	0	10,000		神 社 振 興 奨 励 費	200,000	200,000	
財 産 利 子	3,095	3,000		地 方 研 修 所 費	499,587	800,000	
預 金 利 子	6,444	4,000		講 習 会 助 成 費	0	50,000	
諸 収 入	5,140,813	4,552,737		庁 報 発 行 費	1,069,020	1,100,000	
郷土暦頒布費	2,114,250	2,000,000		郷 土 暦 調 整 費	1,095,150	1,100,000	
手数料並授与料	1,094,600	800,000		神宮奉賛活動推進費	400,000	400,000	
雑 収 入	801,963	652,737		指 定 団 体 補 助 金	1,220,000	1,220,000	
特 別 納 付 金	1,130,000	1,100,000		神 社 本 庁 協 賛 金	450,000	450,000	
当 初 運 営 金	6,000,000	6,000,000		表 彰 費	22,103	150,000	
繰 越 金	19,992,100	20,957,963		神 社 調 査 費	47,970	300,000	
歳 入 合 計	103,025,652	103,800,000		諸 祭 寄 贈 金	80,000	120,000	
歳 出 の 部				雑 費	0	0	
款項 科 目	25年度決算額	本年度予算額		一都七県当番準備金	0	1,000,000	
幣 帛 料	407,600	450,000		神 社 本 庁 負 担 金	4,332,900	5,000,000	
神宮神徳宣揚費	30,659,312	31,480,000		大 麻 暦 頒 布 費	964,486	1,051,000	
本庁特別納付金	9,529,312	10,000,000		頒 布 始 祭 費	80,000	80,000	
支 部 交 付 金	21,130,000	21,480,000		郷土暦頒布交付金	634,275	700,000	
会 議 費	3,400,193	4,320,000		荷 造 発 送 費	29,211	50,000	
役 員 会 費	1,592,025	1,900,000		雑 費	221,000	221,000	
委 員 会 費	79,034	220,000		派 遣 費	870,354	1,320,000	
関係者大会費	1,216,473	1,500,000		評 議 員 派 遣 費	213,866	300,000	
参 与 会 費	512,661	700,000		一都七県連合会派遣費	525,810	800,000	
給料及諸給与	15,747,599	17,354,160		神宮奉仕員派遣費	10,000	20,000	
給 料	7,116,000	8,954,800		事 務 担 当 者 派 遣 費	120,678	200,000	
諸 給 手 当	1,928,520	2,089,960		会 館 運 営 費	636,022	1,120,000	
賞 与 料	2,625,150	3,209,400		神 殿 費	68,466	200,000	
備 人 料	2,143,376	600,000		借 地 費	200,000	200,000	
社会保険・厚生年金	1,875,033	2,400,000		営 繕 費	0	300,000	
福 利 厚 生 費	59,520	100,000		管 理 費	207,556	300,000	
庁 費	6,242,776	7,650,000		諸 費	160,000	120,000	
備 品 費	710,640	900,000		資 金 財 産 造 成 費	4,020,000	7,010,000	
文 房 具 費	27,590	50,000		基 本 財 産 造 成 費	10,000	10,000	
図 書 印 刷 費	350,510	200,000		予 備 資 金 積 立 金	10,000	3,000,000	
消 耗 品 費	399,729	500,000		職 員 退 職 金 積 立 金	3,000,000	3,000,000	
				会 館 維 持 資 金 積 立 金	1,000,000	1,000,000	
				分 担 金	100,000	500,000	
				運 営 資 金 積 立 金	800,000	5,000,000	
				次 年 度 当 初 運 営 金	6,000,000	6,000,000	
				予 備 費	0	5,054,840	
				歳 出 合 計	82,067,689	103,800,000	

山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出決算				自 平成25年 7 月 1 日 至 平成26年 6 月30日		
山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出予算				自 平成26年 7 月 1 日 至 平成27年 6 月30日		
歳 入 の 部				消 耗 品 費	8,944	10,000
款 項	科 目	25 年度決算額	本年度予算額	旅 手 費	81,669	300,000
諸 収 入	担 金	3,161,434	3,028,049	慶 弔 費	120,000	120,000
	協 賛 金	1,554,600	1,554,600	役 員 会 費	20,000	50,000
	寄 付 金	1,444,000	1,444,000	雑 費	7,470	100,000
	雑 収 入	0	5,000	全国神社総代会代議員派遣費	11,050	50,000
	前 年 度 繰 越 金	162,834	24,449	負 担 金	83,160	120,000
	歳 入 合 計	2,684,492	3,671,951	事 業 費	171,600	173,900
		5,845,926	6,700,000	神 社 振 興 対 策 費	1,558,581	3,900,000
歳 出 の 部				講 演 会 費	7,296	1,500,000
款 項	科 目	25 年度決算額	本年度予算額	功 績 者 表 彰 費	50,000	300,000
諸 支 出	備 品 費	343,794	800,000	研 修 費	64,717	100,000
	文 房 具 費	0	5,000	研 修 費	440,000	700,000
	図 書 印 刷 費	2,840	10,000	全 国 総 代 会 積 立 金	300,000	300,000
	通 信 運 搬 費	0	5,000	総 代 会 積 立 金	696,568	1,000,000
		8,661	30,000	予 備 金 積 立 金	100,000	100,000
				予 備 金 積 立 金	0	1,726,100
				歳 出 合 計	2,173,975	6,700,000

神政連山梨県本部歳入歳出決算 自 平成25年 7 月 1 日 至 平成26年 6 月30日				神政連山梨県本部歳入歳出予算 自 平成26年 7 月 1 日 至 平成27年 6 月30日			
歳 入 の 部				歳 出 の 部			
款 項 科 目				款 項 科 目			
25 年度決算額				25 年度決算額			
本年度予算額				本年度予算額			
会 別 協 賛 費	1,822,000	1,920,000	經 常 費	230,325	250,000		
特 別 協 賛 金	319,000	348,000	人 備 品 消 耗 費	150,000	150,000		
法 人 寄 付 金	1,075,160	1,100,000	政 務 所 費	9,293	20,000		
個 人 寄 付 金	1,053,000	1,228,000	政 治 活 動 費	71,032	80,000		
雑 収 入	0	800,000	組 織 活 動 費	4,245,882	5,210,000		
一 都 七 県 繰 越 金	66	709	組 調 査 研 究 費	1,689,354	1,210,000		
前 年 度 繰 越 金	310,272	103,291	寄 付 金 交 付 金	30,130	200,000		
歳 入 合 計	4,579,498	5,500,000	予 備 金 積 立 金	1,932,200	1,950,000		
			一 都 七 県 積 立 金	472,500	400,000		
			一 都 七 県 会 議 費	0	0		
			予 備 金 積 立 金	91,318	1,400,000		
			予 備 金 積 立 金	30,380	50,000		
			予 備 金 積 立 金	0	40,000		
			予 備 金 積 立 金	4,476,207	5,500,000		

金品寄付者に対して感謝状贈呈

神社本庁統理

◆東山梨支部

甲斐郡神社 國府共有山林組合
神社庁長

◆甲府支部

住吉神社 望月 浩、渡辺 貞長

大宮神社

末木賢仁

武田神社

早野 潔

◆東山梨支部

通神社 三森年光、三森志ず
諏訪神社 神子沢晴男（神子 沢林業）

伏木神社

名取俊近（名取建 築）

甲斐奈神社

奥原建築設計事 務所、有限会社 岡建設工業、 伝匠舎株式会社石川工務所、 加藤板金加工所

◆東八代支部

諏訪神社 仲村公仁

◆嶽南支部

弓削神社 有泉誠一、村松 茂、小林貞一

熊野神社

塩島福一

◆峽中支部

神部神社 藤巻和子

笠屋神社 飯野七朗

八幡神社 依田幸春

穂見神社 穂坂 勇、穂坂義 朗

八王子社 新津人実、内藤善 三

諏訪神社 中込慎勇

◆峽北支部

御牧子安神社 高添藤政、山 本勝男、保阪正昭

幸燈神社 鈴木照彦（鈴木建 築）

◆南都留支部

富士御室浅間神社 倉澤傳 夫、大石 勉、小佐野立、倉 澤生吾、小佐野清市、小佐野 健一、倉澤興二

浅間神社 本庄初枝、梶原 宏、渡辺義道、古屋光幸、宮 下恵美子、第三組・第四組

八王子神社 馬羊会、丑寅会

◆北都留支部

福地八幡神社 奈良俊一

神明社 竹下英俊、大神田 武雄、中島 勇

平成二十六年 度 神宮大麻曆頒布始祭 神宮大麻曆頒布表彰式 秋季推進会議 出席報告

南都留支部 支部長 渡 辺 主 計

九月十七日午前十時、神宮内宮神楽殿に於て平成二十六年度神宮大麻曆頒布始祭が斎行された。祭典に先立ち、両正宮の御垣内参拝を参列者全員が行い、式に臨んだ。上箱に納められ大御前に奉られた神宮大麻と曆が、鷹司大宮司より北白川統理に授けられ、北白川統理及び田中総長から各神社庁長に頒たれた。神社本庁奉納による大々御神楽奉奏の後、午後一時から神宮会館大講堂に於て表彰式が行われた。儀礼の後、先づ平成二十五年神宮大麻曆頒布優良神社庁表彰があり、山梨県神社庁が特に努力の認められる神社庁として表彰され、県神社関係者の努力が結実されたものと誇りに思った。次に特別表彰頒布優良奉仕者として、北口本宮富士浅間神社上文司厚氏が表彰された。

引続いて、秋季推進会議が開催された。

一、平成二十五年神宮大麻曆頒布数について

大麻合計七三〇三八の減体
神宮曆五四八冊の増

二、平成二十六年神宮大麻曆交付数について

九月十日現在に於て全国では、七一九一九体減

山梨県では一五〇〇体増、神宮曆については全国二〇三八体減、山梨県では増減なし

三、三ヶ年継続神宮大麻都市販布向上計画について

平成十七年度より取り組んできた「一千万家庭神宮大麻奉賛

全国神社総代会大会に参加して

浅間神社 総代会会長 三 井 晴 則

全国神社総代会の第五十回全国大会が九月九日、岐阜市の長良川国際会議場で開催され、全国から二千人の神社総代が出席した。本県総代会では四十一名が出席し、富士吉田を出発して各支部の出席者が乗車して一路大会々場へ向かいました。開会式には少し遅れて到着し、記念講演の六代桂文枝先生の演題「笑いはこころのビタミン剤」が始まっており、先生の話術に

運動「モデル支部制度に次いで、新たな施策として取組決定をされた。目標として「都市部に於て氏子意識の涵養と総氏神としての神宮の理解を図り、神棚の普及による家庭祭祀の振興と神宮大麻頒布の向上を目指す」との計画が稲本宗奉賛部長より趣旨説明があり、神社庁報告等の後、閉会となった。全国的に神宮大麻の減退傾向であるが、本年度もいよいよ頒布時節が到来した。県内神職、総代など頒布奉仕者の日常の更なる連携により一丸となって、増体となる様取り組みたい。

より念づれば花開くの言葉に心を打たれました。式典に入り、開会の辞を地元岐阜県神社総代会の岡本太右衛門会長が行い、神宮遙拝、国歌斉唱に続き、主催者代表の三村会長が式辞を述べた。三村会長は式年遷宮に触れ奉賛の真心を捧げてきた我々としても慶賀に堪へない旨を語り、神社神道の興隆こそがわが国のさらなる発展に繋がるもの、信念をより一層尽力に励むこと

を求めた。続いて神社功労者の表彰があり、本県から諏訪神社役員野田武様と富士浅間神社役員渡辺勝雄様の二人が表彰を受け、次に来賓の神宮大宮司鷹司尚武様、神社本庁統理代理田中恆清総長が祝辞を述べた。田中総長は奉仕神社の護持運営をはじめ斯界の興隆発展、後継者の指導育成などに謝意を表した上で、さらなる協力を訴えた。次に長曾我部延昭神道政治連盟会長、吉田肇岐阜県知事、細江茂光岐阜市長がそれぞれ祝辞を述べ、次に被表彰者を代表して岐阜金神社総代の野々村定雄氏が謝辞を述べた。次いで同会事務局長を務める小串和夫神社本庁副総長が平成二十六年事業計画を発表した。来年の次期大会開催地を代表して滋賀県神社総代会の木村増男会長が挨拶した。聖寿万歳を奉唱し、国分正明副会長が閉会の辞を述べた。翌日は尾張一宮真清田神社を正式参拝して帰路についた。



山梨県神社総代会国旗掲揚運動報告

国旗掲揚推進委員会は平成二十五年八月三十日に第一回の委員会が開催されました。

その委員会の中において委員長に中込豊秋総代会長、副会長に穴切大神社秋山忠也宮司、南都留神社総代会柏木繁副会長がそれぞれ選出され、国旗掲揚推進委員会は活動を始めました。

平成二十五年九月二十日に第二回の委員会が開催され、平成二十六年には三月十四日と五月二十七日にそれぞれ第三回と第四回の国旗掲揚推進委員会が行われました。

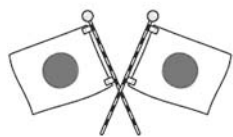
委員会では、国旗掲揚推進のために何が必要なのか、何が問題なのかを議論してきました。その中で、各支部内において国旗頒布と国旗掲揚啓発運動の教化を行く事、また、各支部の活動をより活発にするために各支部内に国旗推進委員を設けること、配布物「日本の祝日と国旗国歌のハンドブック」を用意し、これを用いて国旗掲揚の啓発運動を行う事等が話し合われました。第四回の委員会では、国旗に対しより理解を深めるた

めに、講師の先生をお招きして講演会を行うことが決定されました。

しかし、平成二十六年八月十九日の講演会は、当日の交通事情により講師の先生が会場に到着できず、講演会を急遽中止することとなりました。当日ご参集いただいた神職、総代の皆様にはご迷惑をおかけして大変申し訳なく思っておりますが、今後も様々な啓発活動を行っていく予定ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

国旗掲揚推進委員会はこの一年の啓発活動を通して多くの神職・総代の皆様に国旗バッチを付けて頂けるようになりました。また、家庭用国旗セットを四五四組頒布することが出来ました。

ご協力を頂いた方々に厚く御礼を申し上げ報告とさせて頂きます。



日本会議総会報告

去る九月四日、山梨県神社本庁二階神殿に於いて「日本会議山梨県本部総会並びに憲法改正を考える県民の集い」が開催されました。県内神職総代をはじめ日本会議会員約六十名が参加されました。

神殿拝礼、国歌斉唱、日本会議綱領唱和、前原昇会長挨拶に続き、御来賓である山梨県神社庁の根津泰昇庁長、山梨県神社総代会の中込豊秋会長、神道政治連盟山梨県本部の佐々木幸永本部長より夫々ご挨拶を頂戴し、事務局より平成二十五年度事業報告と会計報告、平成二十六年度事業計画（案）と会計予算（案）の説明があり、特に意義もなく原案通り可決されました。そして聖寿万歳の後に第一部の総会が閉会となりました。

続く第二部では、百地章先生の「誰にでもわかる憲法改正の話」というDVDを鑑賞しました。このDVDは、「憲法に天皇の元首規定」「日本の平和を守るため『九条二項』の改正を」「憲法に『家族保護』を明記し『家族の絆』を」の三部構成と

なっており、タイトルの通り非常にわかりやすい内容でした。

そして第三部は、潮匡人先生による「東アジア情勢と、いわゆる集団的自衛権」の題目で、ご講演をいただきました。前夜の内閣改造や当日の最新情勢も踏まえた内容であり、一時間の講演がとても短く感じられ、もっとお話を伺いたいと思う講演でありました。講演終了後は潮先生を囲んでの茶話会が開かれ、親睦を深めるとともに、講演内容についての質疑応答もあり、大変充実した会となりました。



まんが古事記

神武天皇（第二話）



「全国神社保育団体連合会」提供

問い合わせ 東京都渋谷区代々木一―一―二

神社本庁内

電話 〇三―三三三九―八〇一―

一冊 一二〇円



あらすじ

神倭伊波禮皇古命
後の神武天皇は、

日向国の高千穂宮
で葦原中国（日本）
を治めていらつし
やいました。

命は、この国を
もつと平和で豊か
にしようと、多く
の人々と御相談に
なつたところ、東
に向つて旅立たれ
ることとなりました。

日向国から船で
河内国に向われま
したが、思わぬ妨
害にあい、命たち
一行は南へくだり
紀州国から上陸す
ることになりました。

そして熊野から
大和国を目指され
た命の一行には、
数々の危難が待ち
うけていました。
命は神々と多くの
人々の協力をえて、
大和国に向われる
のでした。

お子さん、お孫さんと、

神話の世界をお楽しみ下さい。







神政連地方議員懇談会総会と神政連 推薦議員二名の大任就任について

幹事長 渡 邊 平 一 郎

去る八月二十二日神社庁に於て、一昨年の設立総会以来初めての神道政治連盟山梨県地方議員懇談会総会が開催されました。設立総会以後、衆議院選挙、昨年夏の参議院選挙、都留市長選挙、山梨市長選挙と続けて凡そ一年の間に四回選挙があり、我々の推薦する候補が全員当選するという大きな成果があります。



したが、山梨、都留両市長に就任されたのが地方議員懇談会の幹事長、事務局長でありました。それにより年一回開催されるべき総会が開催されず、幹事長、事務局長が不在のままでした。今回新たに十一名の自民党系の県会議員の諸先生方に参加をいただき、清水武則議員を会長とする新役員が誕生致しました。今日現在神政連と日本会議共同で県議会に「憲法改正早期実現の決議」を要請しておりますが、今まで以上に緊密な連携をとりながら諸問題に対処して行く方針を確認しました。来年は地方選挙の年であります。我々と志を同じくする議員が一人でも多く当選できますよう皆様の御協力をお願いする次第であります。

さて、九月三日の第二次安倍内閣改造に於て、神政連の推薦議員であります有村治子議員が女性活躍担当大臣に、山谷えり子議員が国家公安委員長、拉致問題担当、国土強靱担当大臣に就任されました。誠に御祝を申し上げます。早速お祝を申し上げます。

が、週刊誌やタブロイド紙に二人を誹謗中傷する様々な記事が掲載され、有ること無いこと書かれていきます。どうも今のマスコミは保守の政治家が気に入らない様で、特に神道政治連盟や日本会議に推薦されている二人は超右翼とまで言われているようです。国旗を敬い国を愛し誇りを持つことはどの国でも当り前の



山谷えり子議員

ことです。我々の国志である安倍総理を始め内閣の八割以上が神政連国会議員懇談会の会員である今こそ「日本の心を、鎮守の杜の心を政策に」の信念を持って活躍していただけるものと信じて、テレビ・新聞等のマスコミの批判に呼応することなく一致団結してこれからも応援して行きたいものであります。



ありむら治子議員

内閣

国家公安委員会委員長
拉致問題担当
海洋政策・領土問題担当
国土強靱化担当
内閣府特命担当大臣
(防災)

国会

参議院 政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
参議院 内閣委員会 委員
参議院 憲法審査会 委員

党内

自民党内閣部会 部長
自民党拉致問題対策特別委員会 事務局長
自民党治安・テロ対策調査会 副委員長

内閣

女性活躍担当
行政改革担当
国家公務員制度担当
内閣府特命担当大臣
(消費者及び食品安全、規制改革、少子化対策、男女共同参画)

国会

経済産業委員会 理事
東日本大震災復興特別委員会
国の統治機構に関する調査会

党内

両院議員総会 副会長
キャリア教育推進特命委員会 委員長
選挙対策本部 本部長
青年局 顧問

山梨県神社庁顧問・参与会に出席して

穂見神社 宮司 貝 瀬 精 明

平成二十六年一月に神職身分二級に任ぜられ、此度（九月二十五日）の神社庁顧問・参与会において参与を委嘱され、参与のお仲間入りをさせていただきました。

同時に参与会に列席させていただき、身の引き締まる思いを抱くと共に今後一層の神明奉仕と神社護持に努め、神徳の発揚に努めねばとの思いを新たに致しました。

第二部の講話は中込山梨県神社総代会会長から「私の健康法」と題してお話いただきましたが、医者顔負けの知識と、それを実践する意志の強さには感服致しました。



大変勉強になり、少なからず実行して行きたいと考えております。
現在本務の穂見神社

を始め十五社の宮司を務めさせていただいておりますが、参与という重き役目の拝受を機に更にこれらの神社の護持整備に努めて行きたいと思えます。

宗教法人実務研修会に参加して

甲斐奈神社 禰宜 高原 光 啓

神社には祭祀や教化といった聖なる面と、世俗的な面がある。後者は関係法規等に基づき適切に運営されねばならない。宗教に関する事務を所掌する文化庁では、宗教法人に対し、実務に関する研修会を定期的に主催している。

山梨県においても九月十一、十二日と甲府市内にて研修会が開催され、関東甲信越静地区内各宗教関係者が参加。受講者は二百人を超え、神仏基をはじめ多彩な宗教者が一堂に会した。ここで両日の研修内容を紹介したい。初日は文化庁宗務担当

今回の参与委嘱に対し皆様様に厚く御礼申し上げますと共に、今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。



者による宗教法人の管理運営について概説。次に神社本庁も加盟する日本宗教連盟役員による宗教法人の公益性についての講義。続いて県担当者から登録免許税についての説明。一般に土地建物購入や新築に伴う登記に課税されるが、宗教法人の場合、一定の条件を満たし、所定の手続きを経れば非課税となる。専門家でも知らない場合があり、頭に入れておくことと有益とのこと。最後は税務署員による税務の講義。源泉徴収、収益事業への課税等知っておくべき事柄は多い。

翌日は税理士による宗教法人の会計・税務に関わる講義と演習。収支計算書を作成するなど実践的内容であった。前日の税務の話と重複する部分もあったが、立場の違いから税務調査の現場といった生の話も聞く事が出来た。講師によれば平成二十四年中、調査に入った宗教法人は全国で五万箇所を超え、その内六割は見解の相違が見られ、結果、平均百万円以上の課税がなされたと言う。地方の神社とて無関係でいられまい。包括法人からの補助金が適切に処理されているか確認する事例もあるらしい。神社と個人の会計を区分する事、給与や報酬の源泉徴収を適切に行う事の注意がなされた。

以上の通り、多岐に亘る内容であり有意義な二日間であった。本研修で得た知識を実際に神社運営に活かし、適正な運営を心懸けねばならない思いを新たにしたいところである。因みに主催者によれば、本研修は管内を輪番で開催されるもので、山梨では六年ぶりとのこと。為になる研修であり、次回の受講をお薦めする次第である。

緑陰子供会

石和八幡宮 宮司

土 橋

英

夏休みも終盤を迎えた八月十七日、当社にて緑陰子供会が開催された。地元の小学生を中心に親子や家族での参加もあり、約二十名の子供達の声が境内に響き渡った。ゲームや紙芝居、提灯作り、昼食では美味しいカレーライスを頬張るなど楽しい一日を過ごした。その中で、食事



時における挨拶の話や、火鑽り実演、拜殿での雅楽の説明や演奏を聴いたり、日頃経験出来ない貴重な体験に子供達の目も輝いていたように思う。神社庁教化部、雅楽会他ご尽力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。



緑陰子供会に参加して

小林 めい

私は、とち木からあそびに来ていた親せきの子と三人で緑陰子供会に参加しました。

最初は、何をするのかかわからず不安な気持ちでしたが、昔のいろいろなあそびをしたり、紙しばいを読んでもらったりしてとても楽しかったです。あんどん作りはむずかしかったけど上手に仕上がってよかったです。昔のあそびが、体験できてよかったです。ありがとうございました。



望 月 晴 虹

ぼくらは、緑陰子供会に参加して、昔ながらの楽器や音楽に楽しみ、工作などをしてとても楽しかった。お昼のカレーもおいしかった。一才の弟も楽しんでいた。行ってみてよかったと思った。また次もあれば行きたいと思った。

山梨県神道青年会報告

会長 藤 原 永 起

山梨県神道青年会が来年創立六十五周年を迎えるにあたり、常に斯界の尖兵として諸活動を実践躬行して来られましたことに感謝すると共にこれよりも熱意を捧げることを誓い本周年の事業を紹介させて頂きます。

本周年の核は主題である「継往開来」に則り、今を生きる青年会員がそれぞれの立場と意志で創造していくものであり、その活動には「いのり」という所作が必ずあるべきであろうと思っております。

主たる事業として伏見桃山御陵勤勞奉仕、沖繩甲斐の塔慰霊祭、富士山登拝、終戦七十年慰霊顕彰、遷宮啓発、北方領土早期復帰祈願祭を行います。沖繩に於いては甲斐の塔慰霊祭はもとより波照間島へ渡島し祈りを捧げて参りたいと企図しています。また、例年二月七日に執り行っている北方領土返還要求運動を受け、現地での早期復帰祈願祭を斎行したいと考えております。各事業、先人の思いを継承しつつ更なる発展となるよう努力して参ります。

九月十八・十九日には京都に

於いて創立六十五周年最初の事業として伏見桃山御陵へ勤勞奉仕に行つて参りました。明治天皇陵は古式に則った上円下方墳で、周辺はお堀に囲まれ伏見城本丸跡地の面影を垣間見ることができ、その雄大かつ厳肅な御姿に心が澄む思いでありました。日露戦争開戦百年を迎えた今般、宣戦の詔勅を発せられた大御心を拝し奉仕させて頂きました。

最後に本事業を完遂するためには県内神社並びに神職総代の

山梨県女子神職会活動報告

『大きな神様のお導きの中で』

会長 津 金 八千代

去る七月十八日、本年度総会を会員十四名出席の下、神社庁会議室に於いて行いました。

昨年「少人数ながらも何を為るか！…その内容が重要」を念頭に置き、神社関係者大会での「浦安の舞」奉奏、沖繩「甲斐の塔」慰霊祭、その慰霊祭報告を神社新報社へ投稿。本年八月十八日発行の神社新報にて『回顧録』として掲載されました。通年での祭式研修、舞の研修、

皆様方のご協力なくしては成り立ちません。微力ではございますが、斯界の発展のために尽力させて頂きまします。で、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。い申し上げます。



各種団体への協力、新会員加入の働き掛け等、会員一丸となつて一つ一つの祭事、行事に势力的に取り組んで参りました。

さて、今迄の会員十九名に加え本年度新に五名が参入し、山梨県女子神職会は総名二十四名での活動となり、益々勢いを増して来た感がございます。既に七月三、四日神社本庁に於いて全国女子神職協議会に依る教養研修、代議委員会に出席、七月二十四、二十五日神社庁主催の「浦安の舞」の講習会に参加。来る十月二十四日の神社関係者大会には「豊栄舞」を奉奏させて頂く事となり、稽古が始まりました。



年が明けて三月十七日には、全国女子神職協議会関東地区研修会を富士吉田市に於いて行うべく準備を進めて居ります。一方、例年通り祭式研修、舞の研修などの他、会員よりの要望で「古事記」の勉強会も新に行う予定でございます。又、今迄「浦安の舞」を奉納させて頂く度に装束一切をお借りしておりましたが、今後の課題として「浦安の舞」の本装束の購入を協議し、金額的には大変でございますが、何とか形にしていきたいと存じます。総ては神様のお導きの下、神事が滞り無く成立して行く為の道と心得、益々、山梨県女子神職会の充実を計って行く所存でございます。皆様には今後ともご指導、お力添えを宜しくお願い申し上げます。

雅楽会活動報告

岡 田 美佐子

雅楽とは世界最古のオーケストラである。

これは秋山会長の口癖であるが、決して誇大広告ではない。千年以上昔から継承されている管楽器、弦楽器、打楽器から構成される立派な管弦楽団である。

山梨県神道雅楽会ではこの伝統ある雅楽の習得の為、日々研鑽を積んでいる。

稽古は毎月二回であったが、前年度より回数を増やして毎週水曜日、穴切大神社の社務所にて行い、会員の一層の技術上達を図っている。

又神社庁での稽古では宮内庁

式部職楽

部元首席

楽長上明

彦先生を

お招きし

御指導を

頂戴して

いる。時

折雑談を

交えての

和気藹々



とした稽古場の雰囲気は程良い緊張の中でのびのびと演奏出来る非常に充実した時間である。稽古後の先生との食事会での一杯も格別に旨い。

こうした稽古の他、神社庁の恒例祭や武田神社等の祭典での演奏奉仕も行っている。緑陰子供会では演奏に加えて雅楽や楽器の説明も行い、教化に努めている。

神社以外の場所での教化も行っている。近年は県内の小中学

全国敬神婦人

鹿児島大会に参加して

北 澤 梅 子

初めて訪れた鹿児島は台風の影響で雨が降り続き、明けて九月二十五日は雨もあがり海も穏やかな山々も姿を見せてくれました。第六十五回鹿児島大会の会場は、城山観光ホテル、目の前に噴煙を上げた桜島が私達を迎えてくれました。山梨県より十八名の参加です。広いホールは会員の皆様の熱気が漂うなか、式典が開会され厳粛のうち

校からの依頼で学校の音楽室で演奏する機会が増えている。目の前で演奏される聞き慣れぬ音楽と見慣れぬ楽器に子供達は興味津々で、思いも寄らぬ質問が飛び出す事もある。教員からも初めて雅楽を聞いたとの声もあり日本文化の継承者を育む為の有意義な活動となっている。今後とも技術向上を目指して修練を積み、会員一同雅楽を通しての神道教化に尽力し積極的に活動していきたい。

国歌斉唱、北白川会長の式辞があり、議事が進められていきました。

来年は、青森大会と発表されました。終了後、生で聴いた薩摩琵琶の奏でる音色に心打た



れ、照國神社宮司 島津修久様の「島津七〇〇年の歴史―海をみていた殿様たち」の講演は興味深いお話でした。最終日は霧島神社の正式参拝、広い境内、朱塗の鮮やかな社殿は今でも脳裏に焼きついております。御祭儀等の様子をビデオで観せていただき、さすが歴史と文化の地だと感じました。砂風呂も経験し知覧特攻平和会館にも足を運び内容の濃い二泊三日の楽しい旅の余韻を胸に、西郷さんの銅像に見送られ帰路に着きました。敬神婦人会員として神社の奉仕活動のみでなく、地域社会に於いても何かお役に立たせて頂きたいと思えます。

ありがとうございました。

神社庁野球部活動報告

野球部 監督

稲 葉 政 信

神社本庁戦

九月六日、青葉グラウンドにおいて、神社本庁職員を山梨県に招いての親善野球大会が開催されました。神社本庁野球部と山梨県神社庁野球部の交流は長い



歴史があり、今回で二十四回を数えます。四年ぶりの山梨県での開催ということで、神社庁役員、神社総代会、また関係する神職各位からご協賛を賜り神社本庁野球部を歓迎できる体制が調いました事、この紙面をおかりして篤く御礼申し上げます。さて、当日は晴天に恵まれ、午後三時より、中込豊秋総代会

長がバッターボックスに、中田欽也総代会副会長がピッチャーマウンドに立つての始球式から始まりました。神社本庁は毎年職員の採用がある事から若手が主軸であるのに対し、山梨県は序々にOB神職から青年神職に主軸を移行しているものの、まだまだOB神職の力を借りなければならぬ状況下にあり、また十月には一都七県野球大会もあることから、部員の技術見極めも考慮し、先発から後発まで三段階に分けた全員参加型の野球でフォーメーションを組み



ました。

結果を総括すると、神社本庁は少数精鋭で主軸を最初から最後まで起用しての安定した攻走守、山梨県は前半は守備が乱れミスにより大失点、中半から後半は守備も安定してきたが、初回の失点を逆転できず、結果2点差で神社本庁が勝利しました。夜の反省会も、庁長含め、神社庁役員の出席もあり、神社本庁職員と県内若手からOBまでの神職総代会が会しての楽しい一時となりました。

へ二都七県野球大会

十月三日、明治神宮外苑軟式野球場において、一都七県神青



協主催の恒例の野球大会が埼玉県神道青年会主管で開催されました。当日は、武田神社名誉宮司の葬儀と重なった為、甲府支部神職を含め主軸のOBを欠いての参加となり、苦戦が予想されました。ところが、青年会を主軸に一部のOBをクリンナップに組み、出場十チーム中、三位の好成績を収めました。今回の試合展開から、若手が伸びてきた事を実感する一日でした。

第一試合（茨城に勝利）、第二試合（神奈川Bに勝利）、準決勝（埼玉に一点差で敗退）三位決定戦（群馬に勝利）

祭典を斎行して

吉田の火祭り

北口本宮富士浅間神社 宮司
上文司 厚

平成二十四年三月に重要無形民俗文化財に国指定された火祭りが、今年も八月二十六日、二十七日の両日に亘り斎行された。この祭は、浅間神社とその境内社である諏訪神社の両社の祭り、両社の御霊代が神幸するという稀な特徴がある。

二十六日午後五時、境内から明神型の神輿と富士山型の神輿が立出。この時、俄かに雨が降り始め、瞬く間に豪雨となった。神輿が下

る参道は宛ら川となり、御旅所に向かう国道も雨水が溢れ、猛者達はぶ濡れになりながら神輿を険しい形



相で担いでいた。しかし約一時間後、雨はぴたりと止み、神輿は無事富士吉田市コミュニティセンターに設えた御旅所に到着。と同時に国道一三八号線の南北約二キロ間に、九〇余本の松明が立てられ点火された。

松明は夜半まで赤々と焚き上がり、祭の初日を終えた。明くる二十七日午後二時、再び二基の神輿が立出。「金鳥居」と「御鞍石」の二か所の御旅所の神事を経て、境内に到着。諏訪神社、浅間神社の御霊代が夫々に還幸され恙なく祭は終了した。往年の松明の本数は多い年で八十本程だったが、昨年より企業協賛が増えて九十本を超え、

今年はさらにそれを上回った。参詣者も増加している。火祭りに対してのマスコミの取材も多くなっている。世界遺産の効果の顕れであることは言うに及ばない。嬉しいことではあるが、祭の厳修に負の効果があつてはならないよう自戒している。

八朔祭り

生出神社 宮司

小林 一夫

都留市四日市場生出神社の例祭「八朔祭り」は、惣行司（当番は谷村五町順番制）初下り

（例年八月五日）を以って本格的に動き出します。まず神社に正式参拝、次いで自治会館に於て四日市場宮本行司を始め各組当番・神職・宮本総代・神楽保存会代表等相集い、今年の祭典斎行について最初に惣行司の意向を伺い、諸般の事情から本年も「居祭り」（本祭りに対する祭典形式で神輿の巡幸が行われない。昭和五十五年が最後）とすることに決し詳細な打合せが行われました。

十七日は神楽の稽古始め、（四日市場獅子神楽は安永八年

菊田伊織から熱田皇太神宮神楽諸国順行について演舞の保証をえた文書がある。）師匠連が三十日まで毎夜子供たちも交え稽古に励む。

二十五日前後からは乙女舞（豊栄舞）の練習も始まる。中学二年生が中心で指導は歴五十年のベテラン先生。

三十一日、宵宮祭、境内の行灯に火が点り、神楽堂の提灯に明りが入る。午後五時斎行。引続いて神楽巡行。末社・辻・境等で舞、神楽が奉納され、子供たちの稽古の成果が初めて親たちにも披露される。

谷村町内では優美な姿に飾り成した四町の屋台が曳行されました。

九月一日 例祭 午前九時遣幣使参向のもと斎行。

御旅所祈願祭 午後一時、谷村大手通り御旅所に据えられた御輿の御前で遥拝形式で斎行。

そして今は、ただただ大神さまの御守護と関係者の皆さまのお力添によりまして無事今年の八朔祭り斎行できましたことに対する感謝の念で一杯です。ありがとうございます。

第十四回神社関係者囲碁大会報告

山梨県教育関係神職協議会

事務局長 小佐野 文 男

十四回目を迎える神社関係者囲碁大会は、山梨県神社庁主催、教育関係神職協議会（会長 興石 仁）が主管し神社庁二階神殿において開催された。

大会には幼稚園・保育所の子供たちと小学生合わせて二十八名、県内八支部より囲碁を愛好する氏子崇敬者Aクラス・Bクラス合計十二チームの参加があり、八月十二日（火）、午前九時より開会式が行われた。主催者として根津泰昇神社庁長から「子ども達には夏休みの良い思い出となるよう頑張つて欲しい。また囲碁は頭の回転を良くする効用もあるの、

今後も続けて行つて欲しいと願っている。一般の囲碁愛好家は、囲碁を続け大会に参加する



る事は達者で長生きの秘訣になつていくようだ。」とのご挨拶を頂いた。

今回の大会では、青沼審判長から、「この大会のお陰で青少年の技量の向上が図られ、第一回文部科学大臣杯 全国中学校囲碁団体戦全国大会で、今日も参加している小学生が全国六十四校の内ベスト8に食い込む健闘ぶりだった」との報告があった。やはり継続は力なりと思う次第である。

今回の入賞チームと入賞者を紹介します。

一般の部（Aクラス）

優勝 古宮太神社（甲州市勝沼町）

準優勝 白鬚神社（甲州市塩山）

第三位 穴切神社（甲府市）

一般の部（Bクラス）

優勝 福地八幡神社（大月市富浜町）

準優勝 白山神社（富士河口湖町）

第三位 氷川神社（甲州市勝沼町）

青少年の部（有段者）

優勝 大柴智親（山梨大学付属小）

準優勝 原田 環（貢川小）

第三位 三枝伊織（山梨大学付属小）

青少年の部（上級者）

優勝 伊藤貴大（北新小）

準優勝 清水亞耶（山梨学院付属小）

第三位 福田大和（羽黒小）

青少年の部（初心者）

優勝 野村 友（北新小）

準優勝 猪飼悠生（千塚小）

第三位 興水陸斗（敷島南小）

参加チームの高齢化と固定化が見られるようになって来ました。来年の第十五回大会には皆様方の神社からの出場をよりしくお願い致します。



計 報



山梨県神社庁前理事、武田神社名誉宮司土橋勝夫殿には去る八月十九日に逝去されました。生前の御功績を偲び、斯界への御貢献、御協力に深謝し、此処に謹んで哀悼の意を表します。

祭 典 日 程

10・22	中央市布施八幡穂見神社例祭
10・25	南アルプス市吉田諏訪神社秋祭
10・26	巨摩八幡宮秋祭例大祭
11・1	甲府市愛宕神社例祭
11・3	大嶽山那賀都神社紅葉新祭
11・10	弓削神社例大祭 市川大門町
11・15	青柳諏訪神社例大祭・御幸祭
11・23	北杜市高根町舟形神社秋例祭（新嘗祭）
11・23	甲府市中畑諏訪神社秋祭例大祭 米倉鉾神社
11・15	甲府市下帯那諏訪神社新穀感謝祭
11・23	甲府市高畑元宮住吉神社例大祭
11・23	甲府恵比寿神社えびす講祭
11・23	玉諸神社新嘗祭 酒折宮新嘗祭
11・23	甲府市勝沼古宮太神社秋季例大祭 明野町上手宇波刀
11・23	神社新嘗祭 韮崎市穴山町諏訪神社新嘗祭 韮崎市穴山町
11・23	穂見神社例大祭新嘗祭 北杜市高根町熱那神社新嘗祭 都留市生出神社新嘗祭 新倉富士浅間神社新嘗祭 当麻戸神社新嘗祭 境川八幡神社新嘗祭
11・23	甲府市向山佐久神社新嘗祭 南アルプス市高尾穂見神社

支 部 だ よ り

甲府支部

支部長 小山 利行

山梨県神社庁甲府支部神職総代会合同総会を七月二十二日アピオを会場に開催された。

当日は総会に合わせ、甲府支部国旗掲揚推進委員会の設立総会も合わせて催された。支部の総会では前年度の決算が承認され、今年度の事業計画、予算案

が議決された。国旗掲揚推進委員会では支部の委員長に市総代会副会長で酒折宮総代の菅原五男氏を、副委員長に神職より元宮住吉神社花形豊宮司を選任、

又総代会の五つのブロックより五名の副委員長と各ブロックの委員が選ばれ、それぞれ承認された。今後、各ブロック毎に細かな計画が進められ、国旗掲揚推進に向け活動が始まる事とな

った。

総会の後、赤池誠幸参議院議員を講師に研修会が催され、講演では各国の国旗の歴史的経緯や背景等が説明された。特に先月独立についての投票が行われた英国々旗について、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドの各地区の合わさった形である事が説明されたが、独立を問う投票行動の背景が示されていて関心を呼ぶものであった。総参加者百二十名の会議であったが、充実した内容となった。

東八代支部

支部夏期研修会開催報告

支部長 志村 重治

去る九月七日(日)午後二時より一之宮浅間神社参集殿において恒例の支部神職、氏子総代会同夏期研修会を開催しました。

研修会には、来賓として根津神社庁長、中込県総代会長の臨席を賜わる中、約六十名が参加

しました。研修内容は、静岡福祉大学講師橋田重男先生による「子ども、故郷、神社にまつわる原風景」と題する講演を約一時間三十分頂きました。講師の橋田先生は境川町大黒坂という山裾に広がる、風光明媚な山村で生まれ育ちました。幼少年期の昭和四十年代頃は、ガキ大将の率いるチビッコ仲間達と、周辺の山野や産土の白山神社境内などを遊び場に駆け廻り、時には善悪の見境をも体得するな

ど、この年代の経験が自身を形成する原風景となり、現在大学講師として活躍されている先生の個性的でユニークで自信に満ちた楽しい語りを醸し出しているんだなと感じました。「子ども七つは神のうち」と云われ神に近い存在にある子ども達の為に祭への参加や境内や野外を駆け廻る昔ながらの原風景を育む事が子ども達の成長に大事だと研修で学ぶことが出来ました。

社例大祭

11・24 韮崎市若宮八幡宮秋祭(新嘗祭)富士吉田市上暮地神明社新嘗祭 新屋山神社新嘗祭

11・25 小淵沢北野天神社新嘗祭

11・26 韮崎市武田八幡宮新嘗祭

11・28 大泉町逸見神社新嘗祭

12・31 甲斐市西八幡八幡大神社師走大祓 甲州市勝沼古宮太神社大祓

1・1 八代町北熊野神社歳旦祭、鰺

沢八幡神社元旦祭 北杜市高根町長沢船形神社歳旦祭 韮

崎市穴山町諏訪神社新年祭

船津八王子神社歳旦祭・厄祓祭 船津筒口神社歳旦祭・厄

祓祭 北杜市小淵沢北野天神社元旦祭 北杜市白州町白州

若宮八幡神社元旦祭 北杜市長坂町穂見諏訪十五所神社元旦祭 北杜市大泉町逸見神社

元旦祭 都留市生出神社歳旦祭 山梨市大工天神社歳旦祭

石和町比枝神社歳旦祭 一宮町橋立甲斐奈神社歳旦祭

1・12 一宮中尾神社中尾道祖神祭(十三日)

1・14 北杜市長坂町穂見諏訪十五所神社箇粥神事(十五日)

1・15 都留市石船神社初祭

1・17 新屋山神社正月祭

今後の予定

「神殿新嘗祭」

初穂を供え、今年一年の収穫の感謝と喜びを神々に奉告する「新嘗祭」恒例による神事を下記により斎行致しますのでご参列下さい。

記

- 1、日時 平成26年11月14日(金)
午後3時
- 2、場所 山梨県神社庁神殿



「新穀感謝祭」

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たにす新穀感謝祭は、本年で六十回を数えることとなりました。

本年も多くの皆様のご参列を得て、奉賛の喜びを共に致したく存じます。

記

- 1、日時 平成26年11月20日(火)・21日(水)
(一泊二日)
- 2、神宮では御垣内にて特別参拝、神楽殿での御神楽の奉奏が執り行われ、「干支の飾り皿」が参拝記念として撤下されます。
- 3、宿泊ホテル、二日目の行程、参加費は支部によって異なります、支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。

「神宮初まいり」

毎年恒例となりました神宮初まいりの旅を下記の日程で行います。今回は、第60次式年造替の春日大社への特別参拝など、関西方面を予定しております。

多数の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

- 1、日時 平成27年1月21日(水)～23日(金)
(二泊三日)
一日目…伊勢神宮(外宮・内宮)
御垣内参拝 鳥羽泊
二日目…春日大社正式参拝
湯の花温泉泊
三日目…京都観光

2、参加費 決定次第、ご案内致します。

「神殿例祭、神職初会」

神殿例祭並びに神職初会を下記の日程で斎行致します。

記

- 1、日時 平成27年1月29日(木)
午後3時
神殿例祭 午前10時30分
神職初会 午前11時30分
- 2、場所 山梨県神社庁神殿



三島神社
北杜市須玉町大蔵鎮座、御祭神は大山祇命、氏子数百二十戸の産土神社である。春の祭時には子供神輿が出御、秋の祭典は初穂の奉納、十一月は氏子崇敬者の七五三詣、正月を迎える大晦日の宮籠りは地元青年団の屋台や甘酒の振る舞いで初詣客を迎える。掲載の写真でも判るように田畑の中の御社なので管理や整備に苦勞するが、氏子中の協力によって維持している。昭和五十五年に時の環境庁長官より参拝を受ける。

表紙写真説明